

## 第5学年 算数科学習指導案

平成16年9月29日(水) 5校時  
児童 男18名 女13名 計31名  
指導者 館澤由香里

1. 単元名 小数のかけ算とわり算を考えよう(2) 東京書籍 新しい算数 5年上 p66~p89

### 2. 単元の目標

乗数が小数の場合の乗法や、除数が小数の場合の除法の意味とその計算のしかたについて理解し、それを用いる能力を伸ばす。また、計算法則は数範囲が小数の場合でも成り立つことを理解する。

[関心・意欲・態度] ・乗数や除数が小数の場合でも、既習の整数の計算の数量関係などをもとにして、乗法や除法の式に表そうとする。

[数学的な考え方] ・整数の乗法、除法計算と関連づけて、乗数が小数の乗法、除数が小数の除法の計算のしかたを考える。

[表現・処理] ・乗数が小数の乗法、除数が小数の除法の計算をすることができる。

[知識・理解] ・乗数が小数の乗法、除数が小数の除法の意味やその計算のしかたを理解する。

### 3. 単元について

#### (1) 教材について

本単元では、「 $\times$ 小数」「 $\div$ 小数」の意味(乗法、除法の意味の拡張)とその計算方法を理解させることをねらいとしている。

第1小単元では、小数の乗法の意味を整数の範囲から小数の場合にも適用できるように拡張し、小数をかける計算のしかたを理解させることをねらいとしている。導入では、「 $\times$ 小数」を適用する「1つ分の量 $\times$ いくつ分=全体の量」の場面を提示し、その立式を考える段階で「 $\times$ 整数」の場面と対比させる。そして数直線を手がかりにして、どちらも1mの値段と買った長さから代金を求めるので、同じ構造の問題であることをとらえさせ、言葉の式と関連づけながら「 $\times$ 小数」の式を導き出す。乗法の意味を拡張するにあたって、「 $\times$ 小数」の計算を「 $\times$ 整数」に帰着させて計算するときの基本的な考え方を事実即して理解させる。さらにこの考えをもとに「 $\times$ 小数」の計算のしかたを形式化して筆算としてまとめ、計算の習熟を図る。次に、純小数をかけると積は被乗数よりも小さくなることや、整数の時に成り立った交換、結合、分配の法則が小数でも成り立つことを確かめる。

第2小単元では小数の除法の意味を整数の範囲から小数の場合にも適用できるように拡張し、小数でわる計算のしかたを理解させることをねらいとしている。導入では「 $\div$ 小数」を適用する等分除の場面を提示し、その立式のしかたを考える段階で「 $\div$ 整数」の場面と対比させる。そして、数直線を手がかりにどちらも代金と買った長さから1mの値段を求めるので同じ構造の問題であることをとらえさせ、言葉の式と関連づけながら「 $\div$ 小数」の式を導き出す。除法の意味を拡張するにあたって、等分除は「1つ分の量」を求めることを理解させる。計算のしかたは、「被除数と除数に同じ数をかけても商は変わらない」という計算法則を用いることで、既習の整数の計算と同じ考え方で求められることを理解させる。さらに、この考えをもとに「 $\div$ 小数」の計算のしかたを形式化して筆算としてまとめ計算の習熟を図る。次に、純小数でわると商は被除数よりも大きくなることや、包含除の場面も提示し、除法を適用してあまりを求め、あまりの位取りについても理解させる。最終段階では面積公式への適用を通して小数の除法の結果を上から2けたの概数で求めるときの処理のしかたを理解させる。

第3小単元では、小数倍の意味をとらえさせながら、乗除の相互関係の理解をねらいとしている。この場合も、数直線図を提示して数量の関係を的確にとらえさせるようにする。

#### (2) 児童について

算数アンケートの結果、算数の学習に対する意欲がプラス傾向の児童は6月に62%だったのが、7月末には74%であり、高いとはいえないが、いくらか意欲が増している傾向にある。また先生や友達の話をしっかり聞こうと努力している児童は97%で学習に対して前向きに取り組もうとしている様子が感じられる。

考える方法としては、既習事項を使いながら考えようとしている児童は87%だが、図や数直線を使って考えている児童は49%と少ない。

また、計算練習を最後までがんばろうと思って取り組んでいる児童は58%と少ないことから本単元では、計算に対する意欲をもたせて取り組ませていきたい。

準備テストの結果、前単元の小数のかけ算(小数 $\times$ 整数)の筆算は、正答率が81%、小数のわり算(小数 $\div$ 整数)の正答率が78%であった。しかし、 $360 \div 30 = 36 \div$  という問題では30%であった。この考え方は小数のわり算を考えていくときの基礎となるところなので、本単元に入る前にしっかりと復習しておかなければならない。

事前テストでは、ほとんどが全問不正解で、正答率は6%であった。小数どうしのわり算の筆算は、とりあえず既習の筆算のように計算はしているものの小数点の位置を間違えているものがほとんどであった。また文章題では、文意を理解できない子や、わる数が小数になることへの抵抗からか、わり算の式をたてられない子も多かった。そこで、図などを用いながら、わる数とわるられる数の関係をしっかりとらえさせて立式したり、見積もりをもとに商の小数点の位置を考えさせたりするなど、ていねいに指導していかなければならない。

(3) 指導にあたって

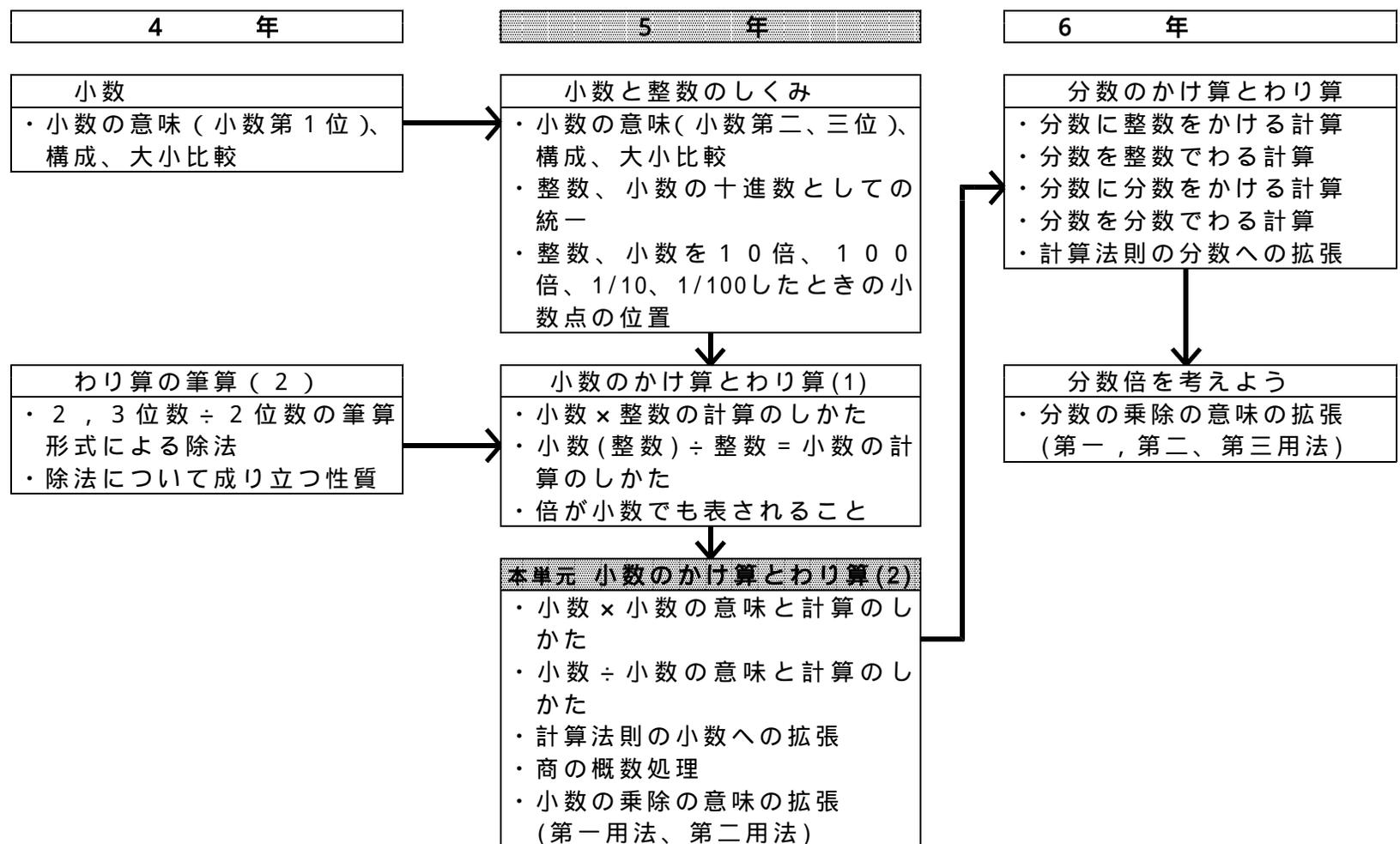
第1小単元において、小数をかけることの意味をとらえさせるには、「×整数」の段階で整数をかけることの意味をしっかりと押さえておくことが必要不可欠である。このとき、小数をかける場面を図に表しながら、「×整数」と同じ構造になっていることをたしかめ、言葉の式に表して「×小数」の式に導いていくようにする。

除法の意味の小数への拡張は、第1章単元における乗法の意味の小数への拡張と対をなしている内容なので展開のしかたは共通することが多い。この場合も、場面を図に表しながら「÷小数」の式に導いていくようにしたい。

さらに、小数の乗法、除法の計算のしかたを導く根拠として、乗法では「被乗数を1/10にして、乗数を10倍にしても積は変わらない」、「乗数が10倍になると積も10倍になる」ということ、除法では、「被除数と除数に同じ数をかけても商は変わらない」という計算の性質を用いる。事前テストの結果ではこの考え方が十分ではなかったので、しっかり復習をして、これらの計算の性質を積極的に活用しながら問題を解かせるようにしたい。

また、練習の場面では、1～2問全体で解き、その後自分で問題を解くようにさせたい。また、問題を解くのが速い子にはレベルアップの問題を準備し、時間のかかる子には個別に指導を行うなどして、個にあわせた練習の場にしていきたい。

4. 教材の関連と発展



5. 単元指導計画 ( 20時間 本時12 / 20 )

単元の基礎・基本として		小数どうしの乗法除法の計算のしかた					
単元の評価基準		関心・意欲・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解		
		・ 小数×整数、小数÷整数の計算のしかたを、既習の乗法、除法計算と関連づけて考えようとしている。	・ 既習の整数の乗法、除法計算をもとにして、小数×整数、小数÷整数の計算のしかたを考えている。	・ 小数×整数、小数÷整数の計算をすることができる。	・ 小数×整数、小数÷整数の計算の意味やその計算のしかたを理解している。		
単位時間ごとの計画		評価規準 および 具体的評価規準 ( B 概ね満足と判断される視点 )				C 努力を要すると判断される児童への支援	
小単元	時数	目 標					
小数のかけ算	1・2	・ 小数をかけることの意味と、整数×小数 ( 1/10 の位まで ) の計算のしかたを理解する。	乗数が小数の場合でも、既習の整数の乗法の数量関係などをもとにして乗法の式で表そうとしている。	既習の整数×整数、小数×整数などに関連づけて、整数×小数 ( 1/10 の位まで ) の計算のしかたを考えている。		小数をかけることの意味を理解している。	リボンの長さが整数の場合に置き換えて、式を考えさせる。  図と関連させながら、視覚的に考えさせる。リボンの長さ ( 0.1 m分、2.7 m分 ) に対応する値段を1つ1つおさえながら、2.7 mの代金を考えさせる。  図とことばの式から、かけ算の式になることを理解させる。
			1 mの値段が80円のリボン2.7 mの代金を求める式を既習の学習をもとに、乗法の式で表そうとしている。	80×2.7の計算のしかたを既習の整数×整数、小数×整数などに関連づけて考えている。		乗数が小数でも、代金を求めるには整数の時と同じようかけ算の式に表すことができることを理解している。	
	3	・ 1/10 の位までの小数どうしをかける筆算のしかたを理解し、その計算ができる。		整数の乗法の筆算のしかたに帰着して、1/10の位までの小数どうしをかける筆算のしかたを考えている。		小数×小数の計算の筆算のしかたを理解している。	乗数と被乗数を10倍にすると、整数の筆算と同じように計算できることに気づかせる。  乗数の小数点にそろえて積の小数点をうつってしまう児童には、積の見当などをもとに小数点の位置を考えさせる。
				整数の乗法の筆算のしかたに帰着して、2.3×2.8の筆算のしかたを考えている。		小数×小数の筆算で、積の小数点は被乗数と乗数の小数点の右にあるけたの数の和だけ、右から数えてうつことを理解している。	
	4	・ 1/10 の位までの小数どうしをかける計算 ( 末尾の0を処理したり、0を補う場合 ) ができる。			小数×小数 ( 末尾の0を処理したり、0を補う場合 ) の計算ができる。	積の末尾の0を消す場合や、積の上位に0を補う場合の小数をかける計算の筆算のしかたを理解している。	末尾が0になる場合は、積の小数点をうつしてから0を消させる。 積が純小数になるときは、上の位に0をつけたしてから小数点をうつようにさせる。  筆算の手順にそって、末尾の0の処理のしかたや積が純小数になる場合の0の補い方を確認する。
				積の末尾の0を処理したり、積が純小数になるときに0を補ったりすることができる。	積の小数点以下の0は消すことや、積が純小数になるときは、上位に0をつけたしてから小数点をうつという筆算のしかたを理解している。		
5	・ 純小数でわると、商は被除数より大きくなることを理解する。		数直線上の乗数の大きさと関連づけて、被乗数と積の大小関係について考えている。		純小数をかけると、積は被乗数より小さくなることを理解している。	乗法の積は必ず被乗数より大きくなることを考えている児童には、数直線図に表すことで積が被乗数よりも小さくなる場合があることを視覚的にとらえさせる。  数直線から、0.8をかける積はかけられる数の80よりも小さくなるということを視覚的にとらえさせる。	
			1.8 mと0.8 mの代金を数直線に表しながら、被乗数と積の大小関係について考えている。		数直線と式から、1より小さい数をかけると、積は被乗数より小さくなることを理解している。		
6	・ 長方形の辺の長さが小数の場合も面積公式が適用できることを理解する。		辺の長さが小数のときの面積を求めるには、単位を変えて整数の乗法にすればよいことに着目できる。		長方形の辺の長さが小数の場合でも、面積公式を適用して面積が求められることを理解している。	cmをmmに直して面積を求めたときには、 $1\text{ cm}^2 = 100\text{ mm}^2$ となることを知らせる。 確認のために面積の見当をつけさせる。  細かい方眼の長方形を使って、面積の公式が使えることを確かめる。	
			面積を求めるときは、cmをmmに単位を変えることで整数の乗法になることに着目できる。		辺の長さが小数の場合でも、面積は公式を使ってかけ算で求められることを理解している。		
7	・ 数が小数の場合でも、交換、結合、分配法則が成り立つことを理解する。	整数の時に成り立った計算のきまりが、小数の時にも成り立つかを考えようとしている。			小数の場合でも、交換、結合、分配法則が成り立つことを理解している。	にあてはめる小数は、89.7や7.0のような小数は避け、1.2や3.4のような簡単で一般的な小数にさせる。  計算を簡単にできるような手だてをとる。	
		に小数をあてはめて、整数の時に成り立った交換、結合、分配法則が成り立つかを考えようとしている。			に小数をあてはめて、整数の時に成り立った計算の決まりが成り立つことを理解している。		
8	・ 学習内容に習熟する。 ・ 学習内容の理解を深め、算数への興味を広げる。	電卓を用いて乗法の計算をしようとしている。		乗数が小数の乗法計算ができる。		電卓の使い方を教える。  小数点の間違いは、積の見当をもとに考えさせる。	
		電卓を使って数当て手品をしようとしている。		「×小数」のいろいろな計算ができる。			
小数のわり算	1・2	・ 小数でわることの意味と、整数÷小数 ( 1/10 の位まで ) の計算のしかたを理解する。	既習の整数の除法と関連づけて、小数でわることの意味を図やことばの式を用いて考えようとしている。	既習の整数÷整数、小数÷整数に関連づけて、整数÷小数 ( 1/10 の位まで ) の計算のしかたを考えている。		小数でわることの意味を理解している。	買った長さが整数の場合に置き換えて、式を考えさせる。  図と関連させながら、視覚的に考えさせる。具体的なリボンの長さに対応する値段を1つ1つおさえながら1 mの値段を考えさせる。  図とことばの式からわり算の式に表すことができることを理解させる。
			2.5 mの代金が200円のリボンの1 mの値段を求める式がわり算になることを、図やことばの式を用いて考えようとしている。	200÷2.5の計算のしかたを既習の整数÷整数に関連づけて考えようとしている。		リボンの長さが小数で表されていても1 mの値段を求めるには、整数の時と同じようにわり算の式をたてることを理解している。	

3	・1/10の位までの小数どうしの除法の筆算のしかたを理解し、その計算ができる。		整数の除法の筆算のしかたに帰着して、1/10の位までの小数どうしの除法の、筆算のしかたを考えている。		小数÷小数の計算の筆算のしかたを理解している。	除数と被除数を10倍しても商は同じであることを想起させ、 $78 \div 65$ の計算をすればよいことに気づかせる。
			整数の除法の筆算のしかたに帰着して、 $7.8 \div 6.5$ の筆算のしかたを考えている。		わる数とわられる数の小数点をうつして計算し、商の小数点はわる数のうつつした小数点にそろえてうつことを理解している。	筆算の手順をたしかめながら計算させる。商の見当をもとに答えの間違いが少なくなるようにさせる。
4 本時	・1/10の位までの小数どうしの除法の計算(商が純小数や、被除数に0を補う場合)ができる。			1/10の位までの小数どうしの除法の計算(商が純小数や、被除数に0を補う場合)ができる。	1/10の位までの小数どうしの除法の計算(商が純小数や、被除数に0を補う場合)の筆算のしかたを理解している。	分からない子には個別指導を行う。筆算の手順を確認させる。
				商が純小数になる場合や被除数に0を補う場合の除法の計算ができる。	商が純小数になる場合や被除数に0を補う場合の除法の筆算のしかたを理解している。	ポイントとなることを手順にそって復習する。類似問題を誤答した児童を中心に後の練習問題の時に個別指導を行う。
5	・純小数でわると、商は被除数より大きくなることを理解する。		数直線上の除数の大きさと関連づけて、被除数と商の大小関係を考えている。	純小数でわると、商は被除数より大きくなることを理解している。		除法の商は必ず被除数より小さくなることを考えている児童には、数直線図に表すことで、商が被除数よりも大きくなる場合があることを視覚的にとらえさせる。
			数直線をもとに、1より小さい数でわったとき、1より大きい数でわったときの商と被除数の大小関係を考えている。	数直線と式から、1より小さい数でわると、商は被除数より大きくなることを理解している。		数直線から0.8でわると商はわられる数よりも大きくなることを視覚的にとらえさせる。
6	・小数の除法におけるあまりの位取りについて理解する。		あまりの小数点の位置を被除数と関連させて考えている。	あまりのある場合の小数の除法計算ができる。	あまりの小数点は、被除数のもとの小数点にそろえてうつことを理解している。	ジュースの図をもとに商とあまりをを考えさせる。
			$2.5 \div 0.7$ のあまりの小数点の位置を、被除数と関連させて考えている。	あまりのある場合の小数の除法計算で、あまりをきちんとたすことができる。	あまりの小数点は、わる数のもとの小数点にそろえてうつことを理解している。	あまりは除数よりも小さくなるという関係を想起させ、あまりを正しくたさせる。 図と対応させながら、あまりの小数点はわられる数のもとの小数点にそろえることを理解させる。
7	・小数の除法の答えを概数で表すときの処理のしかたを理解する。			小数の除法の答えを、必要に応じて概数で表すことができる。	小数の除法の答えを概数で表す方法を理解している。	上から2けたの概数で表すときには、上から3けたを四捨五入すればよいことを知らせる。
				小数の除法の答えを、上から2けたの概数で表すことができる。	上から2けたの概数で表すときには、上から3けたを四捨五入すればよいことを理解している。	けた数の数え方と四捨五入のしかたを確認する。
8	・学習内容に習熟する。			除数が小数の除法計算ができる。		商の見当をもとに商の小数点の間違いがないようにさせる。
				「÷小数」のいろいろな計算ができる。		あまりが被除数よりも大きくないかたしかめさせる。
小数倍とかけ算わり算	1 ・比較量、基準量が小数のときも、倍は除法で求められることを理解する。		比較量、基準量が小数の場合でも、何倍かを求めるには、整数の場合をもとに発展的に考えている。	比較量、基準量が小数の場合でも、何倍かを除法で求めることができる。		図を見て、くらべられる量ともとにする量の関係をとらえさせる。
			よしこさんの道のりをもとに、他の人の道のりが何倍にあたるかを、整数の場合をもとに考えている。	よしこさんの道のりをもとに、他の人の道のりが何倍にあたるかをわり算で求めることができる。		それぞれの道のりを簡単な数字に置き換えて、何倍かを求める式を考えさせる。
	2 ・倍を表す数が小数のときも、比較量は基準量×何倍で求められることを理解する。		倍を表す数が小数の場合でも、小数倍にあたる大きさを求めるには、整数の場合をもとに発展的に考えている。	倍を表す数が小数の場合でも、乗法を用いて何倍にあたる大きさを求めることができる。		整数倍のときにはどのように立式するかを考えさせ、それをもとに立式させる。
3	・倍を表す数が小数のときも、基準量は比較量÷倍で求められることを理解する。		倍を表す数が小数の場合でも、基準量を求めるには、整数の場合をもとに発展的に考えている。	倍を表す数が小数の場合でも、基準量を比較量÷何倍で求めることができる。		もとにする大きさ×何倍=何倍にあたる大きさというこたばの式にあてはめて考えさせる。
			基準量となるあきらさんの体重を、整数の場合をもとに考えている。	基準量となるあきらさんの体重を、除法の計算で求めることができる。		何倍を整数に置き換えて、式を考えさせる。 数直線図を活用し、 $\frac{\text{比較量}}{\text{基準量}} = \text{何倍}$ を用いた乗法の式にたてさせ、そこから除法の式にもつていかせる。
まとめ	1 ・学習内容の理解を確認する。 ・学習内容の理解を深め、算数への興味を広げる。	電卓を用いて除法の計算をしようとしている。				電卓の使い方を教える。
		電卓を使って数当て手品をしようとしている。				

6. 本時の指導 ( 1 2 / 2 0 )

( 1 ) 本時の目標

1/10の位までの小数どうしの除法の計算 ( 商が純小数、被除数に 0 を補う場合 ) ができる。

( 2 ) 研究仮説に関わって

本時において、確実に身につけさせたい基礎・基本は、1/10の位までの小数どうしの除法の計算 ( 商が純小数、被除数に 0 を補う場合 ) ができることである。前時までに小数でわることの意味と計算のしかた、筆算のしかたについて学習をしてきているので、本時では、まとめ・練習の場に重点をおき、習熟していく。

課題設定の場では、本時は小数どうしの除法の計算練習を行い、マスターするという意欲を持たせて自力解決に移っていく。

まとめ・練習の場では、自力解決をもとに小数どうしの筆算のしかた ( 商が純小数、被除数に 0 を補う場合 ) についてポイントとなることについてまとめ、練習問題に移っていく。定着をはかるための練習問題は、はじめに筆算を 3 問行う。これはできた順に教師にもってきて丸付けを行い終わった子は次の練習問題を解く。次の練習問題には文章題も取り入れ、さらに早く終わった子のためにステップアップ問題を準備する。また、わからない子は個別指導を行い、机間指導でも支援していくようにする。

( 3 ) 展開

段階	学 習 活 動	指導上の留意点 ( ・ ) 評価 ( ) と支援 ( )
つかむ 7分	<p>1. 前時の学習を想起する。</p> $3.6 \overline{) 21.6}$ <p>2. 問題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>次の筆算をしましょう。</p> <p>( 1 ) <math>\quad \quad \quad</math> ( 2 ) <math>\quad \quad \quad</math></p> <math display="block">3.5 \overline{) 2.8} \qquad \qquad 2.5 \overline{) 8}</math> </div> <p>3. 課題をたてる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>小数のわり算名人になろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時までの学習を振り返りながら、前時の類題を 1 問解き、学習の確認をする。</li> <li>小数 ÷ 小数の計算で、わる数とわられる数を 10 倍にして整数になおし、筆算をしたことを想起させる。</li> <li>前時までの筆算との違いに気づかせる。</li> <li>本時は、「÷ 小数」の練習問題をたくさん行い、マスターするように意欲づけをする。</li> </ul>
考える 6分	<p>4. 自力解決する。</p> <p>( 1 ) <math display="block">\begin{array}{r} 0.8 \\ 3.5 \overline{) 2.80} \\ \underline{280} \\ 0 \end{array}</math></p> <p>( 2 ) <math display="block">\begin{array}{r} 3.2 \\ 2.5 \overline{) 8.0} \\ \underline{75} \\ 50 \\ \underline{50} \\ 0 \end{array}</math></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>答えの見通しを立てる。</li> <li>前時の学習から、わられる数とわる数を 10 倍して計算すると良いことを確認する。</li> <li>1 問目につまずいている子もある程度の時間になったら 2 問目に進むようにさせる。</li> <li>早く終わった子には、前時までの問題との違いや、それぞれの問題で気をつけることを考えさせる。</li> </ul>
たしかめる 7分	<p>5. 発表し合い、検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計算のしかたを発表しましょう。</li> <li>それぞれの問題で、どんなことに気をつけて計算すると良さそうですか。</li> </ul> <p>( 1 ) 28 のなかに 35 がないので最初に 0 をたてる。</p> <p>( 2 ) 8 は小数点がないので、小数点をうってから、10 倍にして小数点をうつす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆算の手順にそって、計算をしているか確認する。</li> <li>計算途中で補った 0 にもふれる。</li> </ul>
まとめる	<p>6. 計算のしかたをまとめる。</p> <p>( 1 )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>商の 1 の位に 0 をたてて、小数点をうってから計算する。</li> </ul> <p>( 2 )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>わられる数が整数なので、小数点をうって</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大事なポイントのみを押さえる。</li> <li>小数点の位置について強調し、確認する。</li> </ul>

25分	<p>から、0を付けたして小数点をうつす。 7. 練習問題を全員で2問解く。</p> $2.4 \overline{) 1.8} \qquad 2.4 \overline{) 6}$ <p>・練習プリントを各自のペースで解く。</p> <p>名人プリント</p> <p>名人プリント</p> <p>名人プリント</p> <p>8. 学習を振り返り、次時の学習を知る。</p>	<p>・1問ずつ練習問題をして、手順をたしかめる。</p> <p>(知) 1/10の位までの小数どうしの除法の計算(商が純小数や、被除数0を補う場合)の筆算のしかたを理解することができる。(ノート、挙手) ポイントとなることを筆算の手順にそって復習する。後の練習問題で個別指導を行う。</p> <p>・練習 は基礎基本をみるための筆算問題を行う。練習問題で2問正解した子は自分で丸付けを行い、間違った子は教師に確認にくる。</p> <p>・練習 は、同類の筆算と横の式で構成する。終わったら自分で丸付けをし、さらにステップアップの問題に取り組む。</p> <p>・練習 は筆算の問題と文章題、問題作りで構成する。</p> <p>(表) 1/10の位までの小数どうしの除法の筆算ができる。わからない子には個別指導を行う。</p> <p>・筆算の手順と今日のポイントを振り返る。 ・学習を振り返り、感想をノートに書き、発表する。 ・次時は1より大きい数でわったときと1より小さい数でわったときの商の大きさの違いを比べることを知らせる。</p>
-----	---	---

(4) 評価

- ・1/10の位までの小数どうしの除法の計算を筆算ですることができる。

(5) 板書計画

$3.6 \overline{) 21.6}$	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>課題 小数のわり算名人になろう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>次の筆算をしましょう。            (1) <math>\underline{\hspace{2cm}}</math>      (2) <math>\underline{\hspace{2cm}}</math>  <math>3.5 \overline{) 2.8}</math>                      <math>2.5 \overline{) 8}</math></p> </div>	$\begin{array}{r} 0.8 \\ 3.5 \overline{) 2.80} \\ \underline{280} \\ 0 \end{array}$	$\begin{array}{r} 3.2 \\ 2.5 \overline{) 8.0} \\ \underline{75} \\ 50 \\ \underline{50} \\ 0 \end{array}$
		$2.4 \overline{) 1.8}$	$2.4 \overline{) 6}$
<p>--- (児童の回答) ---</p> <div style="border: 1px dashed black; width: 80%; margin: 0 auto; height: 60px;"></div>			